

【解答にあたっての注意】

- 一 専門試験は、史料解読と日本史学の二つからなる。
- 一 史料解読の試験は、問一から問四までの四問のなかから二問を選択して解答しなさい。
- 一 日本史学については、問題文の指示に従って解答しなさい。
- 一 解答は問題ごとに別紙の答案用紙を用い、いずれも縦書きで記しなさい。
- 一 史料解読（二問）と日本史学の配点比率は、一対一である。

大学院入学試験問題
一般入試・社会人入試

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 日本史学

試験科目 日本史学 科目

問 次の八つの語句の中から三つを選び、それぞれについて説明せよ。

参議 勅旨田 下文 撰銭

四つの口 井原西鶴 平塚らいてう 国家神道

問一

次の史料を読んで以下の設問に答えよ。

太政官符

應聽諸國官長任中一度入京事

右撰格^〇起請^〇。天長元年八月廿日參議左近衛中將從四位上兼行近江權守清原真人夏野奏狀^〇。國中
 之政^〇朝集使可申。而或附史生至于問政。譬猶面墻。伏望差官長副史生一人。其國滯政於玉階之前
 令而陳言。然後罷却。便留史生成。遣政者依奏。但有可奏於玉階前者。雖非朝集使。聽入京。無可
 奏之事者。雖朝集使而不聽之者。今案此奏。事乖時宜。施有支梧。何者凡國宰^〇。務申聽經奏者。先申太
 政官。即商^〇。其可。者奏之。然則直進玉階。應口陳^〇。未審其旨。今諸國長官爲申雜務。請暇入
 京。就官申政。官云。非可奏。玉階前之哀。何輒入京。貴過狀從追却。求之政途。理不穩便。伏望任中一
 聽入京。令申雜政。若留連京下。久不歸者。隨狀勘責。但陸奥出羽大宰管内諸國。嶋不在。此限者。中納言
 兼左近衛大將從三位藤原朝臣基經宣奉。勅。依請。

貞觀十年六月廿八日

典拠：黑板勝美編『新訂増補国史大系 類聚三代格』吉川弘文館、三〇一頁

- (一) 傍線部 a 「天長元年八月廿日……清原真人夏野奏狀」はどこまでか、末尾の三字を記せ。
- (二) 傍線部 a に関連して、清原夏野の奏状とこれに対する決済内容は、後にどのような問題をひき起こしたか、史料に基づいて述べよ。
- (三) 傍線部 a に関連して、清原夏野について知るところを述べよ。
- (四) 傍線部 b 「朝集使」について説明せよ。
- (五) 傍線部 c 「何者……未審其旨。」について漢字仮名交じりの書き下し文にせよ。
- (六) 傍線部 c に関連して、公式令における奏上の原則的な方式と、非常時その他における例外的な方式について説明せよ。

大学院入学試験問題
一般入試(社会人入試)

人文学 専攻

分野・専門 日本史学

問題種別 専門試験

試験科目 史料解読 科目

問一 次に掲げる史料を読んで、下記の設問に答えよ。なお、史料文中の◇は、割書で
あることを示す。また、太字は語句注を付した用語・人名である。その他、適宜表記等を
改めた箇所がある。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に
本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、
これを削除し、出典名等を記載することとします。

(出典『増補続史料大成 大乘院寺社雑事記四』一四五頁より、ふりがな、句点などを打ち直
し引用)

語句注…小者||筆者に近侍する者。立野||地名。上田||近隣の地侍とみられる人名。隆舜法眼
之參所之中間||筆者の配下である隆舜にさまざまな奉仕をする集団の一員。奘舜寺主||筆者の
配下の一人。普代||譜代。繼舜上座・泰弘||奘舜を問いただした筆者の配下。校文||校文。

- (一) 「大乘院寺社雑事記」の筆者について、知るところを述べよ。
- (二) 傍線①を読み下し文に改めよ。なお、漢字にはふりがなをつけること。
- (三) 傍線②を読み下し文に改めたうえで、どのような事態が起きたのか、説明せよ。
- (四) 傍線③は、誰が誰に、何を売却したのか、述べよ。
- (五) 傍線④を漢字かな混じり文に改めよ。
- (六) 傍線⑤について説明せよ。
- (七) この史料の興味深い点、重要と考えられる点について、自由に論ぜよ。

問三 次に示す史料は、河内国石川郡神山村で代々庄屋役を担ってきた高橋家に伝来するもので、A は別紙(B)の翻刻文、別紙B は翻刻文(A)のもととなった史料原本のコピーである。また史料の宛先に見える太郎兵衛は高橋家の祖先である。この史料を読んで以下の問いに答えよ。

A 借用申銀子之事

合六拾五匁者 但、式わり也

右之銀子、当御年貢三ヶ一銀ニ相詰り、何共めいわく仕候故借用申、御公儀へ上ヶ申所実証明白也、則しち物として①我等田地三分と申所上田八畝三分・宍石式斗一升五合也、御年貢之所しち物ニ指入申候間、来秋中本り共急度相済可申候、②■■■■国替御代官替乱等其外いか様の新儀等出来申候共、右之銀子しち物におゐてハ一言有問敷候間、若少成共銀子借り申上へ、右之しち物永代御取なかし可被成候、為其後日之証文如件、

寛永十五年 寅十二月十七日

神山 弥三右衛門(略押)

神山 太郎兵衛殿 まいる

- (一) この史料の内容について、発給月がなぜ十二月なのかを含めて、簡潔に説明せよ。
- (二) 傍線①に見える上田の石盛を小数点以下二ケタまでの数値で示せ。
- (三) 傍線②を、■■■■部分を原本を参照して翻刻しながら解釈せよ。なお、■■の数は必ずしも字数と一致するわけではない。
- (四) 史料にみえる借銀は返済されたか。それはどのようにして分かるか説明せよ。
- (五) 江戸時代における年貢納入の制度上の特徴や庄屋が果たした社会的役割を念頭に置きながら、右の史料から読み取れることを述べよ。

大学院入学試験問題
一般入試・社会人入試

人文学 専攻

分野・専門 日本史学

問題種別 専門試験

試験科目 史料解説

科目

問④
①

問四 史料Aはある出来事をめぐって外務大臣の加藤高明が閣議で報告した内容、史料Bは同じ出来事をめぐって元老の井上馨が表明した意見である。史料を読んで以下の問いに答えよ。

史料A 伊藤正徳編『加藤高明』下巻(加藤伯伝記編集委員会、一九二九年)

『斯かる次第で、日本は今日、同盟條約の義務に依つて参戦せねばならぬ立場には居ない。條文の規定が、日本の参戦を命令するやうな事態は、今日の所では未だ發生しては居ない。たゞ、一は、英國からの依頼に基く同盟の情誼と、一は、①帝國が此機會に獨逸の根據地を東洋から一掃して、國際上に一段と地位を高めるの利益と、この二點から参戦を斷行するのが機宜の良策と信ずる。』

左り乍ら、此際参戦せず、單に好意の中立を守つて、内に國力の充實を圖る事も一策と言ふ事が出来る。交戦國が戦に疲れ終るとき、實力を充備する日本は、自然、國際的地位を高める結果となるから、或は此方が萬全の策であるとの觀測も出来る。自分一箇の考は、参戦斷行の一事のみであるが、事は帝國の存亡にも關する重大案件であるから、慎重の上にも慎重を以て議せねばならぬ。何うか前述の二策に就いて篤と諸君の忌憚ない御意見を伺ひ度い』

史料B 井上馨侯伝記編集會編『世外井上公伝』第五卷(内外書籍、一九三四年)

一、今回歐洲ノ大禍亂ハ、日本國運ノ發展ニ對スル大正新時代ノ天祐ニシテ、日本國ハ直ニ學國一致ノ團結ヲ以テ、此天祐ヲ享受セザルベカラズ。

一、此天祐ヲ全ウセンガ為ニ、②内ニ於テハ比年雜々タリシ廢減稅等ノ黨論ヲ中止シ、財政ノ基礎ヲ強固ニシ、一切ノ黨論ヲ排シ、國論ヲ世界ノ大勢ニ隨伴セシムル様指導シ、以テ外交ノ方針ヲ確立セザルベカラズ。

一、此戦局ト共ニ、英・佛・露ノ團結一致ハ更ニ強固ニナルト共ニ、日本ハ右三國ト一致團結シテ、③茲ニ東洋ニ對スル日本ノ利權ヲ確立セザルベカラズ。

一、東洋ニ對シ英ハ海軍力、露ハ陸軍力、佛ハ財力ヲ以テ之ニゾンメリ。抑モ海陸兩力アル日本ハ、宜シク佛ヲ説キ英露ヲ勸メ、佛ト共ニ財力ヲ以テ日本ノ援助トナラシムルノ策ヲ講ゼザルベカラズ。

一、④日英同盟ニ對スル英國人ノ近來將サニ冷却セントスル感情ヲ、此時局ト共ニ英國人ヲシテ直チニ悔悛セシムルノ方法ヲ採ラザルベカラズ。

一、日露協約ハ此數年間寧ロ紙上ノ協約タリ。此時局ニ際シ、次第ニ具體的事實の協約タラシメザルベカラズ。

一、以上英・佛・露ト誠實ナル聯合的團結ヲナシ、此基礎ヲ以テ、⑤日本ハ支那ノ統一者ヲ懷柔セザルベカラズ。

一、以上、英・佛・露三國ニ於ケル我外交官ノ撰拔ハ、此時局ニ際シ特ニ一致聯絡ノ十分ナル様、其人撰ノ注意ヲ誤ルベカラズ。

一、歐洲ノ三外交方面ノ人撰ヲ全フスルト共ニ、⑥袁ヲ心服セシムベキ特派員又ハ公使ノ有力ナルモノヲ支那ニ撰任セザルベカラズ。

明治維新ノ大業ハ鴻謨ヲ世界ニ求メタルニアリ。大正新政ノ發展ハ、此世界の大禍亂ノ時局ニ決シ、歐米強國ト駢行提携シ、世界的問題ヨリ日本ヲ度外スルコト能ハザラシムルノ基礎ヲ確立シ、以テ近年動モスレバ日本ヲ孤立セシメントスル歐米ノ趨勢ヲ、根底ヨリ一掃セシメザルベカラズ。此千歳一遇ノ大局ニ處シ、區々タル黨情又ハ箇の感情ノ爲メ適材ヲ適所ニ求メザルガ如キハ斷ジテ國家ヲ憂フルモノニ非ルナリ。

大学院入学試験問題
一般入試・社会人入試

2020年度第2期

問題種別 専門試験

試験科目 史料解説

科目

問四
②

(1) ある出来事とは何か。

(2) 史料Aの傍線部①と史料Bの傍線部③⑤⑥から、加藤や井上は日本における中国への対応をいかにすべきと考えていたのか、加藤と井上の考え方の違いに留意しつつ、その一致点も含めて説明せよ。

(3) 傍線部②で、井上はある出来事に対応するために、国内問題をどうすべきと主張しているのか。説明せよ。

(4) 傍線部④のように日英同盟が至った歴史的背景を概説せよ。

(5) 史料Aと史料Bを比べ、加藤と井上が考えるヨーロッパへの対応の違いについて、説明せよ。

(6) 日本の近現代史において、井上のような元老という存在が大きな力を有した。その意味について論じよ。

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 東洋史学

試験科目 アジア史基礎

問) 次の事項の中から 4 つを選択して説明しなさい (各数行～10 行程度)。

解答は解答用紙に書き、選択した事項の番号を明記すること。現代日本語・中国語・英語のいずれかで解答してよい。

- (1) 鄭成功
- (2) 仰韶文化
- (3) 均輸・平準
- (4) 『日本国志』
- (5) サラディン
- (6) 李元昊
- (7) 吐蕃
- (8) 地丁銀
- (9) マルク (モルッカ) 諸島
- (10) 『水経注』

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 東洋史学

試験科目 漢文文献解読 科目

問題) 下記の文章を現代日本語に訳しなさい。

夫校經者將以求其是也審知經字有譌則改之此漢人法也漢人求諸義而當改則改之不必其有左證自漢而下多述漢人不敢立說擅改故博稽古本及他引經之文可以正流俗經本之字者則改之……凡校書者欲定其一是明賢聖之義理於天下萬世非如今之俗子誇博贍誇能考核也故有所謂宋版書者亦不過校書之一助是則取之不是則卻之宋版豈必是耶故刊古書者其學識無憾則折衷為定本以行於世如東原師之大戴禮水經注是也其學識不能自信則照舊刊之不敢措一辭不當摺摭各本侈口談是非也今足下為禮記考異既不敢折衷定本乃欲談是非耶果能談是非則何不折衷定本也……東原師云失不知為不知之意而徒增一惑以滋識者之辨之正謂此

(段玉裁『經韻樓集』卷十一、答顧千里書)

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 西洋史学

試験科目 英語 I 科目

I 次の文章をよく読んで、下記の問いに答えなさい。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

出典：N. A. M. Rodger, "Sea-Power and Empire, 1688-1793," *The Oxford History of the British Empire*, Vol. 2, ed. P. J. Marshall (Oxford University Press, 1998), pp. 169-170.

- 問1 下線部①について、日本語で具体的に説明しなさい。
- 問2 下線部②について、日本語で具体的に説明しなさい。
- 問3 下線部③を日本語に訳しなさい。
- 問4 下線部④を日本語に訳しなさい。
- 問5 下線部⑤を日本語に訳しなさい。

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 西洋史学

試験科目 英語Ⅱ 科目

Ⅱ 以下の英文を読んで、問いに答えなさい。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

出典： Martin Albrow, "Global Age," *The Wiley-Blackwell Encyclopedia of Globalization* (Blackwell, 2012)

問1 ①、②、③にそれぞれ入るもつとも適当な単語を1語で答えなさい。

問2 第3パラグラフの文章全体を日本語に訳しなさい。

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 西洋史学

試験科目 フランス語 科目

次の文章を読んで、下線部①～③を日本語に訳しなさい。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

出典：Jean-François Lemarignier, *La France médiévale*, 2e édition, Armand Colin, 2000, p. 99.

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 西洋史学

試験科目 トイツ言語 科目

次の文章の下線部①、②、③を日本語に訳しなさい。また下線部②の二重線(c)について、本文を参考にして事例を一つ挙げなさい（日本語、ドイツ語いずれでも可）。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

- (a) 著者の造語のラテン語で「移動する人」
- (b) ラテン語で人間の状況

出典: Klaus J. Bade, *Europa in Bewegung. Migration vom späten 18. Jahrhundert bis zur Gegenwart*, C.H. Beck: München 2000, S. 11 – 12. (一部改変)

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻
分野・専門 西洋史学

問題種別 専門試験
試験科目 西洋史学 科目

次の (A)、(B) から一つを選び、その選択したテーマについて、西洋史上の
具体例を示しつつ、可能な限り幅広く論じなさい。

(A) 祝祭 (festival)

(B) 法廷 (court)

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 美学美術史学

試験科目 日本・東洋・西洋の美術科目

問題 下記の A・B 二つの語群からそれぞれ1つ以上の項目を選び、計3項目について説明を加えよ。(必ず A 群から 2 項目 + B 群から 1 項目を解答する、または、A 群から 1 項目 + B 群から 2 項目解答すること。)

【注意】

- ・ 3 項目が 2 枚の解答用紙に収まるよう論述の量を工夫すること。
- ・ 解答は、語群の順番通りでなくともよい。
- ・ 解答の冒頭に、解答する項目名を記すこと。

A 群

1. ラファエッロ・サンツィオ《アテネの学堂》
2. レンブラント・ファン・レイン《夜警》
3. エドゥアール・マネ《草上の昼食》
4. パブロ・ピカソ《アヴィニヨンの娘たち》

B 群

1. 董其昌
2. 彦根屏風
3. 二条城二の丸御殿障壁画
4. 歌川豊国(初代)

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 美学美術史学

試験科目 漢文 科目

問題 次の漢文を読んで、以下の問いに答えなさい。

范寛、姓范、名中正、字仲立、華原人、性温厚有大度、故時人目為范寛。居山林間、常危坐終日、縦目四顧、以求其趣。雖雪月之際、必徘徊凝覽、以発思慮。学李成筆、雖得精妙、尚出其下。遂对景造意、不取繁飾、写山真骨、自為一家。

宋有天下、為山水者、惟中正与成称絶、至今無及之者。時人議曰「李成之筆、近視如千里之遠、范寛之筆、遠望不離坐外、皆所謂造乎神者也。」

(出典…劉道醇「聖朝名画評」、画品叢書本。一部改変。)

【註】傍線部は、人名、地名、国名などの固有名詞である。

問1 右の漢文を、日本語の書き下し文に直しなさい。

問2 右の漢文の東洋美術史における意義について簡潔に記しなさい。

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 美学美術史学

試験科目 英語 科目

問題 以下の英文をすべて日本語に訳しなさい。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に
本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、
これを削除し、出典名等を記載することとします。

出典：Grand View: Special Exhibition of Northern Sung Painting and Calligraphy, National
Palace Museum, 2006, p.16, ll.1-10.

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 考古学

試験科目 考古学 科目

1. 歴史学としての考古学、人類学としての考古学、科学としての考古学、それぞれについて略述しなさい。
2. 古代寺院研究における考古学的手法について、知るところを述べなさい。
3. 酸素同位体比年輪年代法の原理と長所、短所について述べなさい。
4. 考古学における3D技術の活用について、知るところを述べなさい。
5. 前期旧石器捏造事件の経緯と背景、その後の展開について述べなさい。
6. 考古学の発達に寄与した次の学者および遺跡について、その果たした役割を略述しなさい。

| | |
|----------|----------|
| (1) 角田文衛 | (2) 難波宮跡 |
|----------|----------|
7. 次の遺跡・遺物について、知るところを述べなさい（遺跡については所在地を記すこと）。

| | |
|-----------|----------|
| (1) エリ穴遺跡 | (2) 東名遺跡 |
| (3) 造山古墳 | (4) 板碑 |

大学院入学試験問題
(一般入試・社会人入試)

人文学 専攻

問題種別 専門試験

分野・専門 文化人類学

試験科目 文化人類学 科目

問 1. 以下のテーマ群の中からテーマをふたつ選択し、それぞれのテーマについて、具体的な事例をあげながら自由に論述しなさい (解答用紙は、テーマごとに各 1 枚使用すること)。

- ・ 神話と芸能
- ・ 神話と民間伝承
- ・ 地域文化とグローバリズム
- ・ 顕教と密教
- ・ 象徴と記号
- ・ 世界宗教と在来宗教
- ・ 文化遺産と観光
- ・ 浄土信仰と浄土宗
- ・ 民族誌学と理論人類学

問 2. 次の英文を読み、内容を要約しなさい。

著作権法で定められている公表された著作物を使用した入学試験問題に本ウェブページの公衆送付について著作権者より許諾を得ていないため、これを削除し、出典名等を記載することとします。

*出典:

Cannell, Fenella, Introduction: The Anthropology of Christianity. In *Anthropology of Christianity*, ed. Fenella Cannell, 1-50. Duke University Press, 2006.

問 3. 以下の課題のどちらかひとつを選択し、論述しなさい。

A. 近代以降の文化人類学のフィールドワークの原理を簡潔に整理して述べたうえで、あなたが修士研究においておこなう予定のフィールドワークの内容について、全体の研究計画と関連させながらできるだけ詳細に書いてください。

調査の目的 (何を、どこまで明らかにしようとするのか)、調査項目、調査手法、調査の際の留意点や心構えなど、自由に記述してください。

B. 日本思想史・宗教テキスト学等の研究を大学院で進めるうえでの方法について、できるだけ具体的に研究計画を記述してください。

調査の目的 (何を、どこまで明らかにしようとするのか)、調査項目、調査手法、調査の際の留意点や心構えなど、自由に記述してください。